

<白金標準、インフレ抑制から景気重視への転換・・・>



(出所：オアシス)

パウエルFRB議長は、ジャクソンホール講演で「政策を調整する時が来た」と発言し、「物価の安定に向けて一段と前進しながら、強い労働市場を支えるために全力を尽くす」と述べ従来のインフレ抑制から景気重視へ金融政策の方向性の転換を示唆している。特に第2四半期GDP・改定値は、速報値の2.8%を上回る3.0%となるなど、経済の主要な成長エンジンである個人消費が2.9%増に上方修正されるなど経済の主要な成長エンジンである個人消費が2.9%増に上方修正されるなど、景気に対して楽観的な見方が示されている。

ただ非鉄金属のアルミや銅価格が中国の不動産産業の低迷が要因であり、中国経済に対する不確実性が示されている。しかし週末には中国政府が住宅所有者の住宅ローンを借り換えを容認する報道などリスク緩和の動きを見せている。特に9月にはWPIC第2四半期PGM需給報告を控え、プラチナ鉱山の企業決算では価格低迷から収益低下が示されており、供給不足を補うことは難しく、目先下値を固める事が出来ると4400円から4500円へ下値を切り上げる値動きを続けて来ると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDは切り上げ、シグナルも上昇している。RCIでは短期は下げ止まり、長期は切り上げるなど、目先底値を確認した値動きに思え、逆張りに近い値動きが続くと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,380,000 円(2024 年 9 月 2 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 9 月 2 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>